

承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
					 	

様式第1号

令和6年 6月 14日

真庭市議会
議長 小田 康文 様

真庭市議会議員 緒 形 尚 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

早稲田大学 国際会議場井深大ホール
東京都新宿区西早稲田1丁目20-14

3 内 容

全国地方議会サミット2024

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要



(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

令和6年7月10日～11日

視察参加者（真庭市議会有志）

No	名 前	会 派 名
1	柴田 正志	真和会
2	緒形 尚	明日の真庭を考える会

視察日程表 2024年7月10日～7月11日

	日付	出発	到着	イベント	内 容
1日目	7/10	5:30	6:40	真庭市役所→岡山空港	車移動（中国道・岡山道経由）
		7:10	8:25	岡山空港→羽田空港	JAL232便
		9:03	9:29	羽田空港→品川駅	空港線（10駅・26分）
		9:36	10:00	品川駅→高田馬場駅	山手線（10駅・23分）
		10:06	10:16	高田馬場駅→早稲田大学国際会議場	バス
		13:00	17:30	全国地方議会サミット2024（1日目）	早稲田大学 国際会議場井深大ホール
		17:45	17:55	早稲田大学国際会議場→高田馬場駅	バス
		18:02	18:22	高田馬場駅→大崎駅	山手線（9駅・20分）
		18:25	18:27	大崎駅→ニューオータニイン東京	徒歩（2分）
2日目	7/11				
		9:04	9:06	ニューオータニイン東京→大崎駅	徒歩（2分）
		9:10	9:30	大崎駅→高田馬場駅	山手線（9駅・20分）
		9:37	9:42	高田馬場駅→早稲田大学正門	バス
		9:42	9:45	早稲田大学正門→早稲田大学 国際会議場	徒歩（3分）
		10:00	16:00	全国地方議会サミット2024（2日目）	早稲田大学 国際会議場井深大ホール
		16:12	16:26	早稲田大学 国際会議場→高田馬場駅	バス
		16:32	16:56	高田馬場駅→品川駅	山手線（10駅・23分）
		17:03	17:25	品川駅→羽田空港	京急本線（10駅・22分）
		19:50	21:10	羽田空港→岡山空港	JAL241便
		21:30	22:40	岡山空港→真庭市役所	車移動（中国道・岡山道経由）

報 告 書

令和6年7月25日

真庭市議会議長 小田 康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 緒形 尚 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 令和6年7月10日 午後1時00分 至 令和6年7月11日 午後4時00分
2 場 所	早稲田大学 国際会議場井深記念ホール
3 用 件	全国地方議会サミット2024
4 概 要	別紙のとおり



全国地方議会サミット2024 報告書

参加者: 緒形 尚

■スケジュール

2024. 07. 10 (WED) 13:00-17:30

- ・基調講演 「生活を支える強い地域を議会がつくる」

早稲田大学マニフェスト研究所 顧問 北川 正恭 氏



- ・能登半島地震被災地の議会からの報告

輪島市議会議員・元議長 椿原 正洋 氏

珠洲市議会 議長 番匠 雅典 氏

能登町議会 議長 金七 祐太郎 氏



- ・熊本地震の経験と自治体間支援の現場から

熊本市長 大西 一史 氏



- ・能登半島地震と珠洲市の状況と対応

珠洲市長 泉谷 満寿裕 氏



- ・対談

大西 一史 氏 × 泉谷 満寿裕 氏

- ・防災 DX の最前線と今後の展開

国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災情報センター長

防災 DX 官民共創協議会 理事長 白田 裕一郎 氏



- ・災害時におけるドローン・人工衛星など最新テクノロジー活用の可能性

佐賀県庁・JAXA ・総務省地域情報化アドバイザー

宇宙公務員 円城寺 雄介 氏



- ・東日本大震災の経験から

元総務大臣 片山 善博 氏



2024. 07. 11 (THU) 10:00-16:30

- ・非常事態への備えと議会の対応・役割

法政大学 総長 廣瀬 克哉 氏



[パネルディスカッション]

- ・東日本大震災の経験をふまえた災害対応
久慈市議会 議長 濱欠 明宏 氏
- ・大規模復興と議会のあり方
陸前高田市議会議員・元議長 福田 利喜 氏
- ・住民避難・離散と自治体・議会の活動
双葉町長 伊澤 史朗 氏



- ・デジタル・生成AIを活かす
デジタルハリウッド大学 教授 橋本 大也 氏



- ・議会改革の最新トレンドとトピックス
～議会改革の軌跡と展望～マニフェスト選挙から20年、その先に！～
大正大学 教授 江藤 俊昭 氏



[パネルディスカッション]

- ・議選監査委員の活性化と議会・監査委員事務局の連携
あきる野市議会議員・議選監査委員・元議長 子籠 敏人 氏
可児市議会議員・議選監査委員・元議長 川上 文浩 氏
可児市監査委員事務局長 平田 祐二 氏

- ・委員会代表質問を活かす
法政大学 教授 土山 希美枝 氏
甲賀市議会
別海町議会



- ・早稲田大学マニフェスト研究所「議会改革度調査」から
早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏

■まとめ

●能登半島地震被災地の議会からの報告

。 輪島市

発災直後の被害と現状報告、本当に地震の怖さというのは揺れではなくわずか60秒の間で、

命や長年築いてきた財産を一瞬にして失う。そして人生設計も狂わせてしまう本当に怖い災害であることを認識していただきたい。これは、体感した人じゃないと難しいと思うが、本当に怖い現象である。

地震は、1月1日・午後4時10分に発生した。午後7時頃の火災ですが、500m以上離れているんですが煙も立ち上り火災もあった。被害の状況、6月27日ですが、特に人的被害は130名の方々が亡くなっている。8割を超す方が犠牲となられた。まだ3名の方が安否確認できていない。負傷者513名である。朝市焼失被害は焼失面積50,800㎡・284棟である。避難者数は現在21ヵ所/391名（発災直後は13,641名）。人口の流出が1,900人を超えているという状況です。

地震を経験したことで、議会活動の課題や改善については、今回の地震の規模から政府が支援本部ではなく、対策本部を立ち上げて対応すべき案件である。発災直後～3日間、1週間～4週間、1ヶ月単位での支援策が必要である。「命を守ることから生活すること」へ変化、支援が停滞ないように順次、体制を整える。デジタル化の推進（支援制度の説明書が厚さ10cm以上）。災害備蓄倉庫の設置（東アジアでの被害を想定した備蓄品倉庫を能登空港周辺で整備）。輪島市地域防災計画の見直し（一般、地震、津波、原子力、事故、その他）。以上のことを検討することが重要である。

今後、被災地へどのような支援が必要か？

①輪島に住み続け、輪島に人が戻ってこられるような施策が必要である。

- ・この街に永く住み続けるには、震災前よりもよりよい輪島創りが必要である・
- ・輪島に戻ってきたいが、家も仕事もなくなった。

②生活の生業の復旧・復興速度を早める。

- ・自宅再建と生業支援が、復興の入口である。マンパワー不足である。

③支援対象外の改正を求める（市民目線とお役所目線を改める）

1）家屋等の罹災判定が準半壊以下への支援（半壊の壁を取り除く）

準半壊の家屋等は、殆どの支援が受けられない。

10万円の生活資金、仮設住宅入居できない。

2）なりわい支援制度の不備については是正が必要（大規模半壊以上との格差等）

3）「長期避難世帯」の認定が縦割り行政で遅くなる。

最後に、発表者の輪島市議会議員・元議長 椿原正洋氏は、「今回特に言いたいのは、地震はいつ来るではなく、必ず来るとの覚悟を持って準備すべきだ」と言われ、「震災前より、より良いまち・新輪島創りを目指す」と力強く言われました。私自身、何かできることはないかと自問自答した。

・珠洲市

発災直後の被害と現状報告、津波が押し寄せて船が流され車の上に船が乗り上げた状況もあった。漁港も被害があった。海岸の隆起もあり、船が着岸できなくなっている。自衛隊の方が物資を運んでいただいたが、通常金沢から2時間で来れるところが道路が通れないところが多く迂回路を探しながら13時間かかったと聞いた。漁港も被害を受けているので海からの物資の運

搬も諦めた。海岸も最大4m隆起し海の底が見えるようになっていた。最終的には、ヘリコプターによる運搬になり水や食料が徐々に届くようになった。

道路の状況も酷く、海岸線沿いの道路も土砂崩れでしばらく通行ができなかった。一部の地域を除きほとんどの道路で通行が可能になった。自宅避難される方も多く、大きな建物が小中学校しかないということから皆さんそこに身を寄せたが、水も来ない電気も来ないという状況が続いたので2次避難ということで、金沢などに避難をした。今も2次避難所には、230人がいらっしゃる。

発災当初の避難所数と避難者数：1月8日時点、避難者数・7,361人、避難所数・70カ所（指定避難所・13カ所、自主避難所・57カ所）、6月28日時点、避難者数・339人、避難所数・25カ所（指定避難所・13カ所、自主避難所・12カ所）である。また、発災当初の断水・停電状況と現在については、発災当初、断水世帯数・4,791世帯、停電戸数・約8,100戸で、6月28日時点、断水世帯数・757世帯、停電戸数・約10戸（安全確保のため通電不可）となっている。

発災当初の議員の安否については、避難所（自主避難所含む）・7人、自宅・2人、その他（避難所以外、車中泊など）3人となっている全議員の安否確認ができたのは1月5日になった。発災後の議会活動の状況は、1月26日・議会全員協議会（市内の被害状況、支援制度等について）、2月19日・石川県市議会議長会、奥能登市町議会議長連絡協議会による中央要望を実施、3月5日・議会全員協議会（令和6年度当初予算について）、3月11日～3月19日・令和6年第1回珠洲市議会3月定例会 ※日程を短縮（9日間）して開催、5月9日・議会全員協議会（珠洲市復興計画基本方針について）、5月23日・石川県市議会議長会による中央要望を実施、6月18日～7月3日・令和6年第2回珠洲市議会6月定例会 ※通常の会期（16日間）で開催した。

。能登町

地震の概要について

発生時刻：1月1日（日）16時10分

震源地：石川県能登地方（深さ約16km）

規模：マグニチュード7.6

震度：震度7（輪島市、志賀町）

震度6強（能登町松波）

震度6弱（能登町宇出津、能登町柳田）

津波：1日・16時12分 津波警報

16時22分 大津波警報

20時30分 津波警報

2日・1時15分 津波注意報

10時 津波注意報解除

前震：1月1日（日）16時06分 マグニチュード5.5（震度5強）

能登町の被害状況について

【人的被害】

死亡：9名、行方不明：0名、重傷：24名、軽傷：25名

【避難者数】

72避難所：5,481人、1.5次避難：170人、2次避難：745人

1月4日・72ヵ所に5,481人が避難（その他に集会所、自宅車庫、車中泊、ビニールハウス等で避難

していた人多数）、1月9日・避難者数2,637人で最大時の半数以下になり自衛隊の入浴支援が始まった。1月16日・段ボール別途設置、1月31日・避難所49ヵ所で避難者957人、2月9日・コンビニ弁当配布（金、日）唐揚げ弁当かのり弁当、4月30日・対口支援県の避難所運営支援終了でJOCA、自治労、シルバー人材が避難所運営、避難所14ヵ所で避難者164人、6月20日・避難所3ヵ所で避難者49人となる。

【家屋被害】

全壊：1,269棟、大規模半壊：321棟、中規模半壊：490棟、半壊：2,143棟、準半壊：1,454棟、

一部損壊：6,237棟、合計：11,914棟

【インフラ被害】

道路：633路線（約145億円）、河川：56河川（約16億円）、農地：310ヵ所（約19億円）、農業用施設：557ヵ所（約67億8千万円）、林道：261ヵ所、漁港：10漁港、水道：全域6,220戸断水（5月2日解消）

※被害は庁内全域だが、土砂崩れ、津波、家屋倒壊、液状化、地すべり、道路崩壊等、地域によって被害が異なった。

最後に、発表者の能登町議会議員 金七祐太郎氏は、「全国からのご支援ありがとうございました。御恩に報いるため必ず復興を果たします。今後ともご支援よろしくお願いいたします」と力強く言われた。



2024年1月1日午後7時頃 朝市と周辺の火災



1/2 午前2時 航空自衛隊の緊急支援物資搬入



朝市焼失跡



今回の地震の強さを示す
(7階建てビルの倒壊)

● 委員会代 活かす

・ 甲賀市議会

委員会代表質問の概要として、実施時期は6月・9月・12月定例会において通告があれば実施できる。一般質問の日程の前に行う。質問時間は1委員会あたり30分以内（答弁を除く）となっている。質問方式は一括質問・一括答弁方式、及び分割方式の選択制である。関連質問は2名以内の関連質問を認めている。一般質問の可否については委員会代表質問を行った者の同会期中の一般質問は妨げない（関連質問者の可能）となっている。

委員会代表質問の目的は、市民の思いの実現には、各議員・各会派の意見や要望だけでは実現が難しい面があるため、委員会の所管事項で十分に調査・議論し、その内容について委員会代表者が議場で質問する。委員会を基軸とした政策形成サイクルの実現を目指し、委員会の総意として政策提案を行うことで、提案の実効性と議論の連続性が期待できる。議員個人の一般質問に比べ、より重みのある政策提言につながることを期待される。また、委員会における議員間討議が十分でないため、議員間討議を進めて一定の方向性を見つける必要があった。

これまでの経緯として、総務常任委員会代表質問（令和3年9月定例会）、総務常任委員会代表質問（令和4年9月定例会）、産業建設常任委員会代表質問（令和4年9月定例会）で、委員会代表質問が行われた。

執行部の反応や対応については、委員会の総意としての質問であるため、一般質問よりも重みがあり、より具体的に丁寧な対応をされる。委員会からの提言等に対しては、前向きな検討と対応を頂いている。

今後の課題としては、答弁を受けて再質問する場合、それが委員会の総意となっているか（質問者個人の考えになっていないか）。委員会において、質問内容の十分な調整等が必要である。政策提言や、その後の施策の執行につなげていくためには、委員会として相当の準備が必要である。委員会での議論と、議会全体としての意思の決定の相違がないか。委員会の所管事務調査のすべてを、委員会代表質問につなげていくものではない。委員会代表質問は、目的ではなく手段である。

・ 別海町議会

委員会の総意による一般質問とは、委員会代表質問という制度ではなく、一般質問で「常任

表質問を

委員会の委員の総意に基づく」質問を議員が行うものである。委員会で「一般質問で執行部に問うべき」と、総意としてまとめたものを、そのこと（総意に基づくこと）を宣明して一般質問する。付託案件だけでなく、委員会場で提起させたまちの課題や、また一般質問や検討会議との連携により、委員会で扱う課題などが委員会で議論される。令和元年からこれまでに6回実施している。

委員会の「総意に基づく一般質問」の成果と課題については・・・

成果として、議員の問題意識を共有し、委員会の問題意識としていく機会の充実が図られた。委員会として執行機関の責任ある答弁を引き出すことができる。町の行政をチェックする一般質問の機能が充実する。

課題として、委員会と一般質問との機能分担の確保（委員会ですべきことは委員会で）する。再質問のときに「委員の総意」を守ることができるかどうか。

対策と今後の展開は、一般質問後にホワイトボードによる各議員からのコメントをもらう。常任委員会による振り返りの実施をする。今後の展開として、一般質問の中で委員会の委員と相談できるシステムと時間の確保をするために、一般質問の補助員の設置を検討する。

・まとめ（土山希美枝教授）

制度を作るときの難しさがあって、党派もあって会派もあるという話は具体的な提案を実現するための手段であって位置づけだと思う。委員会活動に付随する委員会機能の拡充なのではないかと思っている。党派とか会派は、議会の中の任意団体だから議会の中の政策分野を担当する公式の機構であり、ミニ議会であるところの委員会が執行機関に問いただしたいときにできるには、委員会機能の拡充として位置づけた方がいい。そうした質問するためには、議員のみんながそう思ってるっていうことをまとめるための議論が必要になる。そのこともおそらく委員会活動の活性化という意味であり、議論するという議員同士の関係性を作ることに有効となる。研究者として見てるところだ。ただ制度として入れるとなると違うハレーションが議会の中にもある。〇〇常任委員会で意見交換して、これを共通のメッセージにしようとか委員同士でまとまったら本日の質問は〇〇常任委員会のすべての合意に基づいて行う。と言ったら、執行部側はシーンとなって空気が一変したということも聞いている。委員会でまとまるということがあれば、突破していけることにつながる。一般質問は、議長の許可を得て問いただすことができるから、委員会代表質問については、一応議長には言っといた方がいいと思う。各議会で今回の事例をもとに考えてほしいと思う。

甲賀市議会、別海町議会の事例を含めたディスカッションを聞いて、真庭市議会でも議会改革の一つとして『委員会代表質問』について前向きに検討して行ければと思った。





全国地方議会サミット2024（右上・会場入り口、左上・会場内、右下・土山希美枝教授、左下・マニフェストアワードPR前）

報 告 書

令和6年7月22日

真庭市議会議長 小田 康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 柴田 正志



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 令和6年7月10日 午後1時00分 至 令和6年7月11日 午後4時00分
2 場 所	早稲田大学 国際会議場井深記念ホール ----- ----- -----
3 用 件	全国地方議会サミット2024 ----- ----- -----
4 概 要	別紙のとおり ----- ----- ----- -----



全国地方議会サミット2024

「非常事態への備え、これからの議会」

1日目/7月10日(水)13時より17時30分

2日目/7月11日(木)10時より16時

会場/早稲田大学国際会議場井深記念ホール

1日目(7/10)

<基調講演>

- 「生活を支える強い地域が議会をつくる」 早稲田大学名誉教授/北川正恭 氏

<パネルディスカッション>

- 「能登半島地震被災地の議会からの報告」

輪島市議会議員/椿原正洋 氏

珠洲市議会 議長/番匠雅典 氏

能登町議会 議長/金七祐太郎 氏

…震災・災害対応の経験と自治体間支援の現場から…

<講演>

- 「熊本地震の経験と自治体間支援の現場から」 熊本市長/大西一史 氏

<講演>

- 「能登半島地震と珠洲市の状況と対応」 珠洲市長/泉谷満寿広氏 氏

…災害対応へのDX活用事例…

<講演>

- 「防災DXの最前線と今後の展開」

国立研究開発法人防災科学技術研究所

総合防災情報センター長/臼田裕一郎 氏

<講演>

- 「災害時におけるドローン・人工衛星など最新テクノロジー活用の可能性」

佐賀県庁・JAXA・総務省地域情報アドバイザー/円城寺雄介 氏

<講演>

- 「東日本大震災の経験から」 元総務大臣/片山善博 氏

2日目(7/11)

<講演>

- 「非常事態への備えと議会の対応・役割」 法政大学総長/廣瀬克哉 氏

<パネルディスカッション>

- 「東日本大震災の経験をふまえた災害対応」 久慈市議会議員/濱次明宏 氏
- 「大規模復興と議会のあり方」 陸前高田市議会議員/福田利喜 氏
- 「住民避難・離散と自治体・議会の活動」 双葉町長/伊澤史朗 氏

<講演>

- 「デジタル・生成AIを活かす」 デジタルハリウッド大学教授/橋本大也 氏
...議会改革の最新トレンドとトピックス...

<講演>

- 「議会改革の軌跡と展望～マニフェスト選挙から20年、その先に！」
大正大学教授/江藤俊昭 氏

<パネルディスカッション>

- 「議選監査委員の活性化と議会・監査委員事務局の連携」
可児市監査委員事務局長/平田祐二 氏
あきる野市議会議員・議選監査委員/子籠敏人 氏
可児市議会議員・議選監査委員/川上文浩 氏

...委員会代表質問を活かす...

<講演>

- 「委員会代表質問を活かす」
講演/法政大学教授/土山希美枝 氏
事例/甲賀市議会副議長/田中将之 氏
事例/別海町議会議員/西原浩 氏

<講演>

- 「早稲田大学マニフェスト研究所 議会改革度調査から」
早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長/中村健 氏

※以上が2日間の学びのメニューです。

感想

「能登半島地震被災地の議会からの報告」では輪島市の報告が印象に残りました。
死者は130名、建物損壊は27,889件(93%被災)。人口動向ではR5.4/1 23,575人→R6.6/1 21,669人(減少率8.08%)となっていること。そして小学生699人→403人(▲42.3%)に、中学生401人→286人(▲28.68%)と子供たちが帰ってきていないこと。公費解体申請は現在7654件で、ほとんど解体は進んでいないことなどの報告がありました。

能登半島地震を経験したことで見えてきたこととして

・今回の地震規模は政府が支援本部でなく、対策本部を立ち上げて対応すべき事案であること。

- ・デジタル化の推進が必要であること。(支援制度の説明書が厚さ10センチ以上)
- ・災害備蓄倉庫の設置が必要であること。

そして今後、被災地へどのような支援が必要かでは

- ・輪島に住み続け、輪島に人が戻ってこられるような施策が必要である。
- ・支援対象外の改正を求める・・・それは家屋等の罹災判定が準半壊以下への支援が必要である。準半壊の家屋等は殆ど支援が受けられない。

そしてまちづくりの考え方では

単なる田舎町の復活では未来は望めないとし、震災前よりも、より良いまち、新輪島創りを目指しますとしています。

被災地の輪島市では人口減少、とくに子供たちの減少が深刻であると感じました。被災地へどのような支援が必要か、今後のまちづくりの考え方など当事者の声が聴けて大変参考になりました。

「能登半島地震への熊本市の支援」

- ・派遣者470人
- ・キャンピングカーの導入支援
- ・災害対応従事者への簡易ベッドの提供
- ・能登半島地震の被災者を対象に市営住宅を無償提供
- ・ふるさと納税災害支援代理寄付の受付
- ・飲料水の支援

など多様な支援を行っています。

とくに災害支援としてふるさと納税の代理寄付の受付というような支援の方法もあることを知りました。

「東日本大震災からの復旧」では

陸前高田市では復旧に10年かかった。

1兆円を超える土木工事が本当に必要であったのか？自分たちが決めた155の事業の検証はしていない。山を削って作った土地の65%は未利用となっている。計画の見直しが必要である。

双葉町では町民は全国に分散して13年たっても130名しか帰っていない。

コミュニケーションの工夫と計画の見直しによる柔軟な対応が必要である。

などのリアルな声を聞くことができました。計画は大切であるが必要なら現実に合わせて見直しをするべきだということがわかりました。

「CHATGPT」議員ロボ

議員の発言を集積しそのデータを生成AIに入れると発言ボットができる。

例えば2人のデータを入れると、質問すればそれぞれの議員ロボが答える。

2人の対比ができる。

こういった技術はどんどん取り入れていくべきであるとする。

「トラックトイレ」

災害時に一番困ったことはトイレであった。大便の上に大便をすることはとても苦痛である。そんな時にトラックトイレは大変ありがたかったという話があった。

全国の自治体がトラックトイレを持ち、大規模災害が起きた際は、そこにトラックトイレを派遣する。そういった取組と連携により災害時のトイレの課題解決が前に進むと思われる。

こういった取組を全国の自治体で連携して進めていくべきであると考えている。